

国際的通用性を軸に考えた各課題の問題点と今後の議論の進め方(案)

1. 第一次試験の適正化

- ①各科目がIEAのGAを満たしているのか。(JABEEの認定基準とのズレは?)
- ②部門が高等教育の現状と合っていない。
⇒他国の教育要件にあたる部分。現行の試験内容とのすり合わせが必要(基礎科目、適正科目、専門科目共に)。

2. 技術士補制度の適正化・IPDの充実、整備

- ①技術士補制度が浸透していない。(制度利用、登録のメリットが少ない。しかし一定の登録者がいるため廃止は困難か。)
- ②技術士補登録の難しさ(指導技術士)。
- ③IPDの支援が十分でない。
⇒他国の資格の教育要件にあたる部分であり、制度整備が必要。

3. 更新制の導入・CPDの充実、整備

- ①継続研さんが完全に個人に委ねられてしまっている。
- ②CPDの基準が各機関ごとに異なっており、均質化されていない。
⇒研さんがしっかりと行われるような制度設計が必用。(更新制を最終的な手段とし、CPD制度を整備するなど。)

(案)作業部会を設置
国際的通用性を踏まえて技術士資格、制度の今後の方針を検討する。
⇒本委員会で具体的な制度設計等について検討

国際的通用性

- 他国の技術士資格との相互認証
- 国際的なエンジニア資格(APECエンジニア、IPEAエンジニア)登録の追加審査の軽減 等

4. 活用促進・普及拡大

- ①部門により活用の程度に差がある。②国際技術士資格であるAPECエンジニアも活用が進んでいない。
⇒技術士が国内外で活躍できる環境づくりを行うべき。まず技術士、APECエンジニアの認知度向上が必要か。
(例)公的活用の拡大(主に国内)、民間企業での若手人材育成への使用 など

5. 総合技術監理部門

- 他の20部門との関連で
- ①国際的な技術士資格の中での位置づけがあいまい。
 - ②総合技術監理部門に求められる能力が明確でない。
⇒まず国内における他部門との位置づけ等の明確化が必要。